

北里大学病院・旧北里大学東病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	成人冠動脈バイパス術における人工心肺の使用と術後急性腎傷害に関する検討 (B23-115)
当院の研究責任者 (所属・職位)	北里大学 医学部 心臓血管外科学講座 助教 土田勇太
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の概要・背景・目的	<p>心臓手術における術後急性腎障害(AKI)は入院期間の延長や周術期死亡率の上昇に寄与し、短期、長期予後を悪化させるとされ、発症予防、早期治療が肝要とされている。しかしながら術後 AKI の発生機序や予測因子については未だ不明な部分が多い。</p> <p>成人に対する冠動脈バイパス術においては人工心肺を使用しない術式(Off Pump Coronary Artery Bypass Graft: OPCAB)と人工心肺を使用する(Coronary Artery Bypass Graft: CABG)が広く知られている。本邦では人工心肺を使用しないことで脳梗塞などの塞栓症の発症リスクを低減させることや人工心肺による炎症系メディエーターの活性化を抑制する観点から OPCAB が諸外国と比べ多く選択されている。術後 AKI のリスク因子の一つとして人工心肺による生体への人工物の接触から炎症性メディエーターを介した影響が知られている。しかしながら OPCAB は手技の煩雑さの問題などから、本邦で広く選択されているが世界的には第一選択の術式とはなっていない。また術後合併症の比較においても CABG と OPCAB での比較では不明な部分が多い。</p> <p>冠動脈バイパス術における人工心肺の使用と術後 AKI 合併との関連性を後方視的に調査する。OPCAB が人工心肺使用による AKI 発症リスクを低減することが明らかとなれば、症例選択において参考となり今後術式選択において今まで以上に多く選択される術式となりうる。</p>
調査データ 該当期間	2012年1月1日から2022年12月31日までの期間の検査結果を調査します。
対象となる患者さん	北里大学病院での成人冠動脈バイパス術を受けられ、体外式膜型人工肺(Extracorporeal Membrane Oxygenation: ECMO)、補助循環用ポンプカテーテル(IMPELLA)を使用されなかった患者さん
研究の方法 (使用する試料等)	<p>利用する情報</p> <p>2012年1月1日から2022年12月31日までの期間の対象患者さんの採血検査結果や手術記録や手術中検査結果、人工心肺記録を使用します。</p>
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
利用又は提供を開始する予定日	利用又は提供開始予定日： 研究機関の長の許可日から

個人情報の取り扱い	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は全て削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	<p>本研究の遂行のための費用は、心臓血管外科学医局研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：心臓血管外科学講座 助教 担当者：(フリガナ)土田勇太(ツチダユウタ) 電 話：042-778-8111</p>
備 考	